

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	保育内容（環境）				
担当者氏名	荘司 泰弘				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・春期

《授業の概要》

保育室や園庭、こどもを取り巻く自然環境などを発見学習環境に調整する意義について学ぶ。認定こども園におけるより良い環境とは、自然をガイドラインにして保育者とこども達が試行錯誤しながら作り出す環境である。保育室における保育材環境、園庭における遊具環境、生命との触れ合い体験における自然保育環境について理解を深める。

《授業の到達目標》

自然の摂理をガイドラインとする自然保育を理解し、こどもを取り巻く人的・物的環境を再認識する。

どこに手を加えればさらに効果があがるか工夫する。（プラン）

マニュアルや思い込みを少なくする。（チェック）

こどもを取り巻く発見学習環境の調整に積極的に取り組む。

（アクション）

《成績評価の方法》

知識に関する評価 試験 50% レポート 20%

技能に関する評価 成果発表 30%

《テキスト》

資料は随時配布する。

《参考図書》

データベース・フレーベル <http://www.froebel.ne.jp>

《授業時間外学習》

「発達心理学」、「文化人類学」、「生命科学」に関する内容を学習しておいてください。

《備考》

出席は欠格条件です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	春の自然保育材を知る	近隣の自然環境を調べ、春の保育材を考える。
2	こども園周辺の環境理解	自然保育のための環境構成図、指導案の書き方を体験する。
3	植物の種類を調べる	自然素材の遊具や自然素材の利用方法について考える。
4	環境遊具	人家周辺の植物や地形を利用した環境遊具について考察する。
5	周辺環境の危機管理	こどもを取り巻く危険性について考える。
6	周辺の公園や里山の利用	環境保全について考察し、環境ホルモンについて考える。
7	自然環境の調整	3歳未満児の散歩のための屋外環境について考える。
8	異年齢交流環境	3歳以上児の散歩のための発見学習環境について考える。
9	動植物との共存環境	飼育栽培の危険性を指摘し、生命と環境について考える。
10	行事と環境構成	時空間の変化を体験するお泊り保育の内容を考える。
11	環境汚染による影響	季節変化の異常や地球環境の汚染について考える。
12	雨水、上水、下水について	混入物の危険性と水による感覚攪乱物質の悪循環について考える。
13	水による環境浄化	生物環境の自然による浄化について考える。
14	自然環境の摂理	ガイドラインとしての自然の役割を考える。
15	自然環境と自然保育	自然保育としての自由保育と環境保育を考える。